

記

国際学術連合会議 (International Council of Scientific Unions, ICSU) が企画して、国際生物学事業計画特別委員会 (Special Committee for International Biological Programme, SCIBP) が実施を担当する国際生物学事業計画 (International Biological Programme, IBP) は、1964年7月23日～25日にわたって、パリのユネスコ本部で開催されたIBP第1回総会およびSCIBP第1回会議で討議せられ、国際生物科学連合 (International Union of Biological Sciences, IUBS) に加盟する諸国の協力の下に、今後8年間 (第一期2～3年第二期5年) の予定で、協力研究を発足させることについての同意が成立したものである。

国際生物学事業計画は、人類の幸福の基盤となる地球上の生物的生产力とヒトの適応能力を調べるもので、激しく変化しつつある地球上の生物学的現状と、将来の見通しについての正確な基本的資料をうることを目的としており、それは生物学者が現在なしている最も緊急で有意義な研究課題の一つであるとの認識に立っている。

日本学術会議は、IOSUの要請に対応して、その生物科学研究連絡委員会内に生物学事業計画小委員会を設けて、周到な検討を加え、パリの第1回総会には代表を送って慎重に対処してきた。日本は、生物科学研究における国際的水準の高さにおいても、また、その地域性においても、この計画への協力が強く期待されているので、本会議はこれに対応する組織を考慮してこの国際協力研究を進めることにした。

ついで、この計画が有効に実施され、日本の科学者が人類の将来の重要課題に貢献しうるように政府は各研究機関が必要として計上する予算に対しては、特別な考慮を払われるよう要望する。

6-28

ベトナム紛争の終結に関して世界の科学者に訴える

1965年4月23日

日本学術会議第43回総会

ベトナム紛争は、いよいよ拡大激化の道をたどりつつあるが、これは世界の平和と人類の幸福を希求するわれわれの願望を脅すものである。事態がこのまま推移するならば、核兵器使用にまで発展するおそれなしとしない。従来しばしば核兵器の実験、貯蔵、使用に反対してきた日本学術会議の会員として、われわれは、このベトナムの事態を深く憂慮せざるを得ない。

ここにおいてわれわれは、武力紛争の拡大防止とその速かな終結の実現とを強く希求し、世界の科学者がこの目標に向って努力するよう訴える。

(送付先: 全会員, 国公立大学長)

Appeal to Scientists of the World
Concerning the Viet-Nam Conflict

The Viet-Nam conflict appears to be expanding and becoming more intense, which increasingly threatens our hope for world peace and human happiness.

If the situation continues to worsen, it could develop to the point where nuclear weapons might be used. As members of the Science Council of Japan who have repeatedly expressed objection to the testing, storage and use of nuclear weapons, we have a deep concern over this situation in Viet-Nam.

At this time, we express our strong hope for prevention of the expansion, and the early termination of the military conflict. We appeal herewith to the scientists of the world to join with us in expressing deep concern over the Viet-Nam situation.

Tokyo, 23 April, 1965

Adopted by the Science
Council of Japan at its
43 General Meeting

(送付先: 各国科学アカデミー)